

第52回日本皮膚免疫アレルギー学会 学術大会を終えて

(2022年12月16日～18日)

※16日はWeb配信, 17・18日はウイंकあいちとWeb配信のハイブリッド開催

秋山 真志

名古屋大学大学院医学系研究科皮膚科学分野教授

はじめに

2022年12月16日～18日の3日間, 初日は完全Web開催, 2・3日目はウイंकあいちとWebのハイブリッド開催にて行われた, 第52回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会は, 盛会のうちに終了いたしました。

本学会期間はCOVID-19のパンデミック第8波の中であり, また, 全国的に寒波にも見舞われました。それにもかかわらず, 3日間を通してどの会場にも多数のご参加, ご視聴をいただき, 結果的には予想を大きく上回る, コメディカル, 学生さんを合わせて1,000人を超える皆様のご参加を賜りました。名古屋でのハイブリッド開催にサポートをいただきました加藤則人理事長, 理事の先生方をはじめとする日本皮膚免疫アレルギー学会会員の皆様, そして, 今回の学術大会を盛り上げていただいた関係者の皆様に, 心より御礼申し上げます。

解き明かそう! 皮膚免疫アレルギーの謎

本学術大会のテーマは, 「解き明かそう! 皮膚免疫アレルギーの謎」でした。免疫学, アレルギー学が急速に進歩する一方で, 皮膚科領域のアレルギー性疾患, 自己免疫疾患, 膠原病, 自己炎症性疾患等は, ますます多様化しています。皮膚免疫アレルギーの謎は, 解けば解くほど新たな謎が生じ, それらに関連した疾患の診療と研究に従事する私たちには, ますます日々の研鑽, 学びが求められています。そのような状況下, 本学術大会が少しでも皆様の楽しい学びの一助となれるよう, このテーマといたしました。

本学術大会ではアレルギー性疾患から自己免疫疾患, 膠原病, 自己炎症性疾患等まで, 皮膚免疫アレルギー領域の広い範囲をカバーし, 最新でグローバルなサイエンティフィック・プログラムの展開を目指しました。さらに免疫学, アレルギー学の初心者



図1 茂呂和世教授の特別講演は満席で, 立ち見の方もいらっしゃいました

の先生にとってはやさしく、基本からわかりやすいプログラムを、また、上級者の先生にはより深い洞察に満ちた内容を提供できるよう、プログラムを工夫いたしました。研修医・専攻医の先生からベテランの先生まで、皆様に本学術大会を十分エンジョイし、そして多くを学んでいただけたのであれば、幸いです。

特別講演・招待講演

特別講演では、大阪大学生体防御学/理化学研究所生命医科学研究センターの茂呂和世教授に「皮膚における自然リンパ球の特性と役割」というタイトルでご講演いただきました(図1)。近年、アレルギー発症機構の理解へ向けて肺や腸管での2型自然リンパ球(Group 2 innate lymphoid cell : ILC2)の解析が急速に進んでいますが、今回、皮膚のILCについて基本的なところから、機械的刺激によって活性化することで皮膚バリアの増強に関わる新しいILCサブセットについてまで、お話しいただきました。

招待講演としては、滋賀医科大学消化器内科の安藤朗教授に「腸管免疫の特殊性からみた炎症性腸疾患の病態について」、日本生命病院整形外科・リ

ハビリテーション科・乾癬センターの辻成佳先生に「関節の免疫病」、名古屋大学大学院医学系研究科救急集中治療医学分野の山本尚範先生に「COVID-19パンデミックをふり返って」、金沢大学リウマチ・膠原病内科の川野充弘先生に「IgG4関連疾患—皮膚病変と他臓器病変—」というテーマでそれぞれご講演いただきました。どのご講演もたいへん教育的で、かつ興味深いもので大好評でした。

おわりに

COVID-19パンデミック第8波の中ではございましたが、現地参加された皆様には少しでも名古屋ならではの学会をお楽しみいただけたのであれば、幸甚でございます。

ここに書き切れない多くの皆様のご協力、ご支援により、今回の学術大会を無事開催することができました。本学術大会にご参加いただいたすべての皆様、準備にご尽力いただいた室慶直副会長、武市拓也事務局長をはじめとする教室員の皆様(図2)、コンベンションフィールドの皆様、すべての皆様に、心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



図2 室副会長(左から3人目)、武市事務局長(右から3人目)、名大皮膚科教室員の皆様と